

かもきっず

ばら組

第6号
令和3年10月29日
京都市立上賀茂幼稚園
園長 下村 貞之

「あったかくなってるっていうことや」

本格的な秋の訪れを告げるかのように、気温が下がってきました。子どもたちもそんな寒さを感じたある日のことです。保育室にやってきたウズラの名前を「ちゅんふわちゃん」と名付け、登園時から「ちゅんふわちゃん…」と名前を呼びながらかわっていました。そんな中、Aちゃんは「ちゅんふわちゃんは、どんな時に鳴くのかな」と疑問をもったので、タブレットで調べようしました。しかし、情報が少なくて、結局、わからず、その代わり…ではないですが、“気温が15°C～25°Cが適温”であるということがわかりました。私は子どもたちに知らせ、温度計を見せると、17°C。「寒くないかな…」と投げかけました。すると「お湯を置いといたら？」と話すBちゃん、「お布団作ってあげたら？」とCちゃん。それぞれに考えたことを話していました。Cちゃんは早速、お布団づくりを始めます。いつも使って遊んでいる木片をベットにするようです。布団は柔らかい梱包材を使いました。“ちゅんふわちゃん”を思ってサイズを一生懸命合わせて「できた！」大きい家にセッティングし様子を見守りました。Dちゃんは椅子を、Eちゃんは「止まり木」をつくり、お家の中に入れました。“ちゅんふわちゃん”も入れてあげて、お家の中でどうしているかと、様子を降園まで撮影し続けることにしました。撮影中も「僕たち、ご飯食べるよ。ちゅんふわちゃんも食べてね」と話しかける姿が見られました。

翌々日のことです。この日も寒く「ちゅんふわちゃん、寒くないかな？」と心配の声が聞かれていきました。この日、先日、撮影した動画を大型テレビで映し、みんなで普通時速で再生したり、早回しで長時間の姿を短時間で見たりしました。うろうろと動く姿を見て「探検しているのかな」と話すと、「ジャングルだと思っているのかな」「忍者になろうと思ってるんじゃない？」と話しが始まり、続けて「じゃあ、忍者の服着せてあげたら？」「カイロ入れてあげたら？」「忍者の家っぽくしたら？」「壁つくったら？」などと、イメージが膨らむとともに、寒さ対策を考えていました。そうして、段ボールを使い、囲いをつくり、窓を開けます。「(窓が)開けっぱなしは寒いね」と話しながら、楽しんで、段ボールカッターを使い、どんどん窓を開けていきました。つくっているうちに、窓が閉まるようにしたり、カーテンをつけたり、子どもたちなりの工夫をしました。そして、屋根もつくり、組み立てて出来上がりです。私が「あったかいかな？」と尋ねるとEちゃんは温度計を持ってきて、“ちゅんふわちゃんのお家”に入れてみました。気温は18°C。しばらくしてから温度計をみてみると、19°Cになっています。「19°Cになってるわ」と子どもたちに伝えるとEちゃんは、「18°Cから19°Cってことは…あったかくなってるっていうことや」と自分たちがしたことで、変化が見られることができました。

気温が下がったことから、ウズラのことを心配し、一人一人が経験したことや知っていることや自分なりの思いや考えを話し、子どもたちが自分なりの力を出し、一生懸命に取り組む姿が見られました。また、それから毎日、ちゅんふわちゃんのことを見守ったり、保育中も度々、温度を確認したりして、みんなで「大丈夫や」と話す姿が見られます。

自分のことではなく、誰かのことを思って誰かのために行動する姿が素敵だなと思いました。

ちゅんふわちゃんのお家



「触ってみたい！」
「抱っこしたい！」

「窓を開けよう」



屋根もつけて
「完成！」